

## 第8回検討委員会資料 炊飯機能について

### 今まで検討してきた協議内容

|       | 食缶方式（現新市方式）   | 弁当箱方式（現旧市方式）                                     |
|-------|---|--|
| メリット  | ・食育の視点からの配膳の重要性<br>・外気温に左右されない配送が可能                 | ・配膳を早く行うことができる                                   |
| デメリット | ・配膳に慣れるまで時間がかかる<br>・配膳の場所を確保する必要がある<br>・食べる量に個人差が出る | ・湿気により中に水分が付着する<br>・外気温に左右される<br>・細やかな調整・配慮はできない |

### 栄養教諭意見(検討委員会欠席のため、意見提出)

-----  
○食缶方式

1. 個々に適したご飯の配食ができる

現在の弁当箱方式でも、調節は上手に対応しているが、茶碗にご飯を盛ったほうが、家庭での食事の様子と比べることができ、自分が食べられる量・食べなければいけない量、そして実際に食べた量がより一層把握しやすくなる。

2. エネルギー量は、主食の量で調整できるようにすべき

小中学生は、体格差や運動量にかなり個人差があります。

3. おいしさや茶碗の持ち方の指導ができる

※ 心配な点：衛生管理と、加工賃等の費用

委託炊飯だと保護者負担が増えるということは、一食単価が変わらない限りおかず代が減るということに繋がります。加工賃やその他費用が今まで以上に増額され、おかず代が減ることが無いようにしていただきたいです。

鳥取市立第二学校給食センター  
栄養教諭

---

○食缶方式

1. 9年間にわたり、配膳を習慣づける、という事は重要

家庭でも習慣が無くなっている中で、配膳を行うことは大事。

※心配な点：新しく体制が切り替わるタイミングについては、学校としっかり連携をとり、混乱が無いようにしっかりと説明等をお願いします。

鳥取市立第一学校給食センター  
栄養教諭